

■ 高野地区地すべり対策事業～被災時と対策工事完成後～

令和元年被災状況



【令和元年被災】

災害発生年月日：令和元年8月28日

地すべりの規模：長さ250m、幅90m

被害：人的被害なし、市道不老山公園線約130m

降雨量：連続雨量448mm（8/27～28日）、最大時間雨量63mm

令和3年被災状況



【令和3年被災】

災害発生年月日：令和3年8月14日

地すべりの規模：長さ40m、幅30m

被害：人的被害なし、施工中の対策施設が被災

降雨量：連続雨量573mm（8/11～14）⇒令和元年時の1.3倍、最大時間雨量57mm

【地すべり対策工事概要】

現場吹付法砕工 面積1,747㎡

落石防護柵工 延長53m

アンカー工 323m

横ボーリング工 83本、総掘進長2,810m

工事完成後_R8.3



■ 高野地区地すべり対策事業 ～工事中の状況～

【斜面の掘削作業】風化岩の落石が多発する急斜面の掘削作業はリモコン操作による掘削機械で行った。



◀【節理が発達した玄武岩の崩落】柱状節理が発達した玄武岩から分離した人頭大から径1m程度の落石が相次いだ。



【斜面へのアンカー・横ボーリング作業】高さ40m以上の大規模な足場を設置しての作業は、梅雨から秋までの多雨期中の作業となったため、施工中の斜面崩壊の危険を考慮し、追加の法面保護対策や作業手順の見直しを行うなど安全性に万全を期しての作業となった。



◀【横ボーリング孔からの排水】

地すべり要因である地下水を排除するための横ボーリングは施工中の安全性を考慮し、斜面工事に先行して応急的に追加施工を行った。降雨後の排水量は多い孔で1分間に60リットルを超えた。



◀【道路復旧時の斜面崩壊】

道路復旧工事中は、5月、8月にたてつづけに斜面崩壊が発生し、追加の斜面保護対策工事が必要となった。

